

エイジフレンドリー指標の開発について

1 エイジフレンドリー指標の必要性

(1) 行動計画の進捗管理方法

「行政中心の行動計画」では、事業毎に目標指数(指標)を定め、進捗状況を測ることとしている。また、「市民中心の行動計画」については、4つの行動計画の取組状況から総合的に判断し、進捗状況を測ることとしている。

■ 秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画での事業毎の目標指数(指標)例

基本方針2					
交通機関の利便性の向上をはかります					
基本施策2-1 公共交通の利用促進					
○ 個別施策2-1-1 バス利用環境の整備					
1	取組内容・事業名			担当課	
	高齢者コインバス事業【本編P. 18】			長寿福祉課	
	取組内容・事業の概要				
	満68歳以上の高齢者が、市内の路線バスを利用する際、市が交付する資格証明書を携帯している者に対し、100円で乗車できるよう助成する。				
	取組内容・事業の目標				
	目標達成のための実施内容				
	広報、新聞、テレビ、ラジオ等の媒体を利用して、交付率の向上を図る。				
	実施期間	H25	H26	H27	H28
		○	○	○	○
	目標指数／ 資格証明書 交付率	50%	55%	60%	65%

(2) エイジフレンドリー指標の必要性

行動計画において事業毎の目標指数(指標)はあるものの、「エイジフレンドリーシティ(高齢者にやさしい都市)の実現」全体の進捗度合を示す指標は、現在のところない。また、実現のための取組は多岐分野にわたり、その概念は抽象的に語られることが多いため、市民には進捗状況が伝わりづらい。エイジフレンドリーシティ

を着実に実現するためには、現在の秋田市の課題、取り組むべき内容や見込む成果について、市民にわかりやすい形で伝え、意識変化を促し、社会全体で活動を進めることができるよう、秋田市のエイジフレンドリー度を示す「物差し(エイジフレンドリー指標)」を設定する必要がある。

新たにエイジフレンドリー指標を設定することで、以下の役割が果たされると期待できる。

- ・市民の理解を促進し、進むべき方向や目標を共有しやすくなる。
- ・エイジフレンドリーシティの推進状況が可視化され、客観的に評価することが可能になる。
- ・行政による取組だけでなく、市民、企業、団体などそれぞれの役割が見えやすくなる。
- ・現在の行動計画に定められた取組だけでなく、新たな取組を掘り起こす効果が期待できる。

2 WHOの取組状況

WHOは平成19年(2007年)に「エイジフレンドリーシティガイド」を発表したが、その中で「高齢者にやさしい都市に不可欠な特徴のチェックリスト」を示し、普遍的な基準とすることを意図とした自己診断ツールを示した。

その後、都市におけるエイジフレンドリー度を測定する指標セットの必要性から、現在その開発に取り組んでおり、公表準備を進めている。(本年度中に公表予定としている。)

■ WHO指標セット事例(現段階のものであり、今後変更の可能性はある)

1. 近隣の歩きやすさ	
主観的定義	車椅子その他の歩行器の使用を含め、近隣の環境が歩行に適していると回答した高齢者比率
客観的定義	アクセシビリティの関連基準を備えた舗道がある、近隣の街路比率
望ましい	－ 高齢居住者へのアンケート
データ資料	－ 市道での現地調査 － 都市計画、道路設備に関する管理資料

3 WHO指標セットの活用ではなく、市独自の指標を開発する意義・必要性

- ・WHOの指標は、世界のあらゆる国や地域の都市にとって、普遍性のある指標とされるため、そのまま活用することが、市民からの理解を得やすい指標とは限らない。
- ・広く市民の理解を得られやすく、わかりやすい指標とする必要がある。
- ・既存の概念、手法にとらわれることなく、秋田市の地域性を盛り込んだ指標を設定することができる。

4 開発の予定スケジュール

時 期	内 容	説 明
8月～10月	指標の事例調査・研究	指標スタイル、規模等について調査・研究し、方向性について検討
11月 第2回推進委員会	指標スタイル・規模など 方向性の提示	行動計画推進委員会で指標スタイル、規模など方向性について意見交換
11月～1月	指標素案作成	指標素案を作成
1月 第3回推進委員会	指標素案の検討	行動計画推進委員会で指標素案について意見交換
1月～3月	指標案作成	推進委員会での意見交換を参考とし、指標案を作成
3月 第4回推進委員会	指標案の検討	行動計画推進委員会で指標案について意見交換
3月	指標の確定	行動計画推進委員会での意見交換を参考とし修正 市独自のエイジフレンドリー指標を確定し公表